

どの子にも、学習し、発達する権利の実現を！

# 障害児教育の明日を語ろう



4 2010年7月8日

全教 障害児教育部事務局

## 特別支援学校校長会と懇談

6月18日（金）、土方部長、杉浦副部長の二人が全国特別支援学校校長会を訪問し、尾崎祐三会長（都立南大沢学園特別支援学校校長）と兵馬孝周事務局長（都立調布特別支援学校校長）との懇談を行いました。

「障害者制度改革の推進のための基本的な方向」（第1次意見）が出され、閣議決定も日程に上っている段階であるという情勢の中での懇談になり、今回の推進会議での教育関係の議論の問題点や、今後の早急な取り組みについて熱を帯びた懇談となりました。特に「すべての子どもは地域の小・中学校に就学し、かつ通常の学級に在籍することを原則と」することが、教育現場や本人、保護者の意見をまったく聴くこともなく決められようとしている不条理さに対する憤りが共有され、この点に関して共同して様々な面から行動を展開していくことが語り合われました。

校長会でもこの間、推進会議の傍聴を毎回のように行い、特別支援学校校長会だけでなく、支援学級設置校校長会、PTA組織などとも連携して意見を上げているものの、直接推進会議で発言する機会も保障されず、手詰まりの状態であることが語られました。重度の障害児なども含めた通常学級に入ったら、事故などが頻発して教員の責任が問われる危険性も指摘されました。

全教障教部は、組織加盟しているJDなどを通じて推進会議委員への働きかけを強めるとともに、この問題が広く国民に知らされていないばかりでなく、障害児教育関係者、教育関係者

にさえ伝えられずに、急ピッチで進展していることを重視し、様々な会議や宣伝物で知らせていく活動の大切にしていることを語りました。

そういった意味でも、今回の2つの「政策提起」をもとに高校を含む通常学級の教職員との懇談を行っていくことの大切さが、今回の懇談の中でも確信できました。校長会からは、「提言の中で、インクルーシブ教育に障害児学校が含まれることをもっと主張してほしい」という要望も出されました。通常学級で様々な困難を抱えている子どもたちに必要な手立てをとることと、障害児学級や障害児学校で学ぶ子どもたちの教育条件保障を進めていくことを両面的に行うことが、今本当に必要です。

「100%就労をめざす」「職業教育偏重」「キャリア教育のあり方」など、政府文科相、校長会との意見が異なる部分もありますが、障害のある子どもたちに豊かな教育を保障するという立脚点はお互いに共有できます。今後とも必要な情報の交換を行っていくことを確認し、懇談を終わりました。

月間「クレスコ」10月号特集

### 「障害のある子どもたちの教育は今」

「障がい者制度改革推進会議」の動向をふまえながら、本来あるべき「インクルーシブ教育」のあり方について考える。

荒川智、特別支援学校校長会、杉浦洋一  
障害児学級。通常学級などの実践  
など、多数の実践と見解